

第3回 春吉橋を核とした空間利活用に関する技術研究会

■日時 平成26年10月23日(木) 13:30~16:00	■委員 ・坂口委員長 ・立花委員 ・松永委員 ・牧角委員 ・野田委員(代)
■場所 第5博多偕成ビル10階 第1, 第2会議室	・帆足委員 ・植松委員 ・辰巳委員 ・松本委員

委員発言要旨

3. 春吉橋周辺の利活用に関するヒアリング

3.1「春吉オルレ」について(九州大学大学院生)

～春吉の魅力を多くの人に知ってもらうために「春吉オルレ」を考案した留学生に聞く、春吉の魅力について～

【海外の方から見て、春吉という街で歴史・建物・自然など、風景のスポットとしての魅力をどのように感じるか?という質問に対して】

- ・ 個人的には神社やお寺は好きだが、中国からの旅行者は大半が団体旅行で、ゆっくり歩くことはあまり出来ない。そのためオルレについても、一気に楽しませるような効率的なコースにした。
- ・ プロジェクトでは時間が足りず、お店の紹介ばかりになってしまったが、春吉の路地や建物をもっと紹介できれば良かったと思う。
- ・ 春吉周辺の特徴をもっと発見し、どう発展させていくかを考える必要があると思う。例えば、外国人の旅行者は、京都や奈良を歴史的な場所としてイメージするが、春吉に感じられるのは、日本人の実際の生活感や雰囲気、これは春吉の特徴だと思う。
- ・ 春吉の開発は必ず必要だと思うが、まず春吉という場所がどこなのかという事を知ってもらうことが、一番大切で、最初にすべき事だと思う。
- ・ 以前、路地歩きに参加されていた20代の日本人の方々に、春吉のどこに魅力を感じたかという質問をした際、皆さんと同じように、春吉のふとした空間に生活が垣間見られる事だと言っていた。海外の方も共通の視点として、路地を歩いていてそういう所に惹かれるということがわかった。
- ・ このような取り組みをいろいろな大学で一斉にやると、大学によってカラーの違いなどがでて面白いと思うので、この研究会の関連イベントとしてやれば、話題づくりや発信ということになるのではないかと。

【春吉橋に広場が出来たら、どういうふうに使ってみたいか?という質問に対して】

- ・ 音楽の噴水が出来たら良いと思う。春吉周辺にはシンボルが足りないので、シンボリックな食べ物や広場などで観光客の目を引くことが出来れば、地域全体の人気も上がると思う。
- ・ 噴水のようなシンボルがあれば一番良いと思う。そうすれば春吉を知ってもらい易くなると思う。また、広場にイベントスペースがあれば、留学生や若者向けの様々なイベントをやりたいと思う。

- ・ このように今までにない視点で、多様な姿を描いていくのも大切ではないか。

3.2「路地の町 春吉」福博回遊のポイント（晴好実行委員会）

～春吉のまちづくりに関わっている「晴好実行委員会」から見た、春吉の動きについて～

【春吉には、春吉で生まれ育った生粋の春吉人は何人ぐらいいるのか？という質問に対して】

- ・ おもてに出でこないお年寄りの方は沢山いる。人的資源は多いが、上の世代の方が掘り下げられていないという、もったいないところがある。

【名島橋（東区名島）においては住民の方に非常に誇りや思い入れがあったが、春吉橋に関しての住民の思いはどうか？という質問に対して】

- ・ 春吉の方々からは、春吉橋に対して何かという言葉は出てこなかった。晴好実行委員会の方も、現状ではあまり興味を持たれていない。地理的に北の端というイメージがあり、自分たちのテリトリーではないと感じているようだ。一方、博多側の方からは、先日のシーニックバイウェイ研究会で、景色が変わるのは良くないのではないかという意見があった。ただ、個人的な意見として、この那珂川の橋というのは歴史的に見ると変遷が激しく、架け替えが頻繁に行われている事もあり、博多や福岡の人間は橋にあまりこだわりはないのではないかという気がする。それよりも、これからの時代は使い方の方が街の人間としては大きなテーマではないかと思う。

【住民の方は春吉橋に対する印象は薄いとのことだが、春吉の方が博多に行くには、どの橋を利用するのか？という質問に対して】

- ・ 近道はキャナルシティ付近の灘の川橋だが、渡った住吉側にはラブホテルなどがあり、町歩きではちょっとおすすしにくい。そうすると、かつてキャナルシティの真ん中に架かっていた橋は、良いラインであったと思う。
- ・ 心の世界を地図に落としした心理マップのようなもので、博多側と春吉側の微妙な色合いの違いを比較すると面白い。そういうものを読み解きながらやっていく必要があるのではないか。

4. 春吉橋周辺の利用実態について

4.1 歩行者・自転車 24 時間通行量調査

- ・ ①平日の春吉橋と中洲懸橋を比較すると、歩行者通行量のピークが天神方向と中洲方向で逆になっているがなぜか。
 - ・ ②中洲懸橋については平日に比べ休日の歩行者通行量が大きく減少しているのは飲食店が休みの休日は中洲懸橋の利用者も少なくなっていることが考えられるのではないか。
 - ・ ③休日の春吉橋では、天神方向の歩行者通行量が21時まで増え続けているが、その一因として外国人観光客と考えられないか。
- ①～③も併せて、今回の調査結果による春吉橋の交通特性については、仮説を立てるなど、もう少しいろいろな視点で整理し直す必要があるのではないか。

4.2 歩行者路上アンケート調査

- ・ 国体道路周辺の歩行者の目的地について、中洲冷泉地区ととの間の動線が昼夜共に多く、特に昼間は櫛田神社、

川端商店街、博多町家ふるさと館を目的地としている。また、博多駅との動線は現状でもある程度見られるが、祇園は空白ゾーンになっており、祇園が歩く目的になっていない事がわかった。

- 国体道路の頻度別利用目的について、国体道路の利用頻度が週1回以上の方の6割弱が、通勤・通学・仕事・帰宅の通過交通として利用している。一方、利用頻度が月数回以下の方の7割強が、買い物・飲食・観光などで国体道路を利用しているため、通過空間としての整備だけではなく、様々な利用の仕方を想定しながら、人が立ち止まって賑わう空間づくりをデザインする事に意味があるのではないかと。
- 休日に買い物や観光で国体道路を訪れている方は、絶対数からすると相当多いのではないかと。例えば、絶対数の多い休日昼間の天神方向への歩行者というのは、恐らくキャナルシティもしくは川端商店街から、天神の大丸辺りまで、歩いて行こうとする人たちで、その途中にくつろぎの広場や休憩場所、ベンチのようなニーズは、結構でてくるのではないかと。
- 利用目的というのは、例えば仕事の帰りに飲食とか、仕事帰りに買い物とか、非常に複合的なライフスタイルがあり、また様々な目的を組み合わせると回遊という事になるので、この辺はあまりきれいに分割しない方が良いのではないかと。

4.3 春吉橋周辺利用におけるまとめ

- このまちの使い方というのはいろいろなパターンがあり、仕事と何か・買い物と何かという複合的な目的をもった方が多いと思うので、そういうモデル的なものを設定して、賑わいの中身や今後どういうふうな手法でやればいいのかを考えていく必要がある。
- 平日の春吉橋で、朝に中洲方向への自転車がピークを迎え、夕方は天神方向がピークに達するのは、自転車で博多駅方面に通勤する若いOL達が国体道路を利用しているのではないかと。また、18時にピークを迎える天神方向への歩行者の中には、天神付近にオフィスのある方が仕事を終えて帰る際、バスの混雑を嫌って徒歩で帰るといったような、通勤者の移動が含まれていると考えられる。その場合、川端商店街を抜けて国体道路から帰るといった通勤者の流れもあるので、通勤者の流れと、生活者・主婦の流れ、観光客の流れなどを分けて捉えるべきではないかと。
- 国体道路の利用目的で、頻度の高い週1回以上利用の方の、さらに半数以上が通勤・通学・仕事・帰宅を目的としていることから、現状の国体道路の歩行者のかなりの方が通過交通だという事が推察できる。ただし、現状を追いかけるかたちで春吉橋周辺を整備するのではなく、現状はこうだが買い物や観光の割合がもっと増えるような賑わい空間をつくっていくための施策を考えることの方が、むしろ議論すべきところではないかと。現状を前提とした議論ではない方が良いのではないかと。
- 春吉橋周辺歩行者の3割が県外客であり、逆に中央区および博多区にお住まいの方の割合は、それぞれ10%および20%程で、地元の方はあまり春吉橋を利用していないと考えられる。福岡市全体を意識した春吉橋という認識で良いのではないかと。

5. その他前回意見について

- 性別毎の国体道路及び周辺で好きな場所について、那珂川が好きと答えた女性がいなかった。自然の景色などに親しみやすいイメージのある女性からの支持がなかった事からも、春吉橋で川に馴染みやすい空間づくりでイメージを変えていくことは非常に大切ではないかと。
- 川がきれいであれば女性も興味を持つと思うが、川自体は変わらなくても、川を使ったプラスアルファを演出することで、女性だけでなく皆が好きな場所になるのではないかと。また、生活者の快適性のための空間づくりをするのか、観光などを核とした都市の活性化のための、春吉橋を使った空間づくりをするのかによっても、違ってくるのではないかと。

- ・ 櫛田神社というのは、改めて女性を引きつける大事な存在であることがわかった。また、居住地別では福岡市内に住む方が、県外市外の方にはない櫛田神社に対して何か強いイメージを持っていることもわかった。

以 上